

1. 授業の目的と概要

金融論 (Money and Banking) とは、資金余剰主体から資金不足主体への資金の融資行動、仲介行動、ならびにそれらに係る証券・債券の取引価格を主な研究対象とし、科学的に分析する学問領域である。金融論のカバーする範囲は広く、広義には資産評価論、証券投資論、コーポレート・ファイナンス論、銀行行動論、金融システム論、貨幣論、金融政策論等、広範な領域を研究領域とする。本講義においては、金融論における主なテーマを鳥瞰し、金融論に関する概括的な知識を習得することを目的とする。

2. 学習の到達目標

金融論を各経済主体の観点から理解することを目標とする。

- 投資家ならびにファンドマネージャーの観点から金融論を理解する。ここで扱うトピックは、資産評価論、証券投資論などである。
- 企業の財務担当者 (CFO) ならびに銀行の貸出担当者の観点から金融論を理解する。ここで扱うトピックは、コーポレート・ファイナンス論ならびに銀行行動論である。
- 金融監督当局者ならびにセントラルバンカーの観点から金融論を理解する。ここで扱うトピックは、金融システム論ならびに金融政策論である。

3. 授業の内容・方法と進度予定

Mishkin の教科書 (下記参照) をもとに授業を進めて行く。英語の教科書を利用するため、高い英語力が必要となる。講義は主に英語で進めて行く予定であるが、必要に応じて日本語でも講義を行う。講義で取り扱うトピックは下記を予定している。

- A. Financial Markets: Interest rates, term structure, stock markets.
- B. Financial Institutions: Financial structure, financial regulations, banking industry
- C. Central Banking and the Conduct of Monetary Policy: FRB, money supply process, monetary policy tools and strategies.
- D. International Finance: Foreign exchange market, international financial system
- E. Monetary Theory: Demand for money, monetary policy in ISLM model, transmission mechanism of monetary policy, money and inflation.

4. 成績評価方法

期末試験の成績で評価する。

5. 教科書と参考書

Mishkin 著 “The Economics of Money, Banking and Financial Markets” 10th ed., Global Edition, Pearson Education, 2013.

6. 予習と復習について

講義の進度はかなり早いことから、内容の理解を定着させるために自主的な復習が重要

7. その他 (履修の条件、連絡先、オフィスアワー等)

使用言語： 講義は英語および日本語。試験は英語で出題し、解答は英語もしくは日本語とする。

履修条件： ミクロ経済分析、マクロ経済分析、経済経営数学、数理統計、会計原理、財務会計を既に履修していることが望ましい。高校卒業程度の代数・微分積分・確率・統計の知識は必須。また、英語のテキストを利用するため、高い英語力が必須となる。

オフィスアワー： 火曜昼休み (12:00~13:00) 経済学部研究棟 622 号室

連絡先： 担当教員HP参照のこと。 <http://nishiyama2001.jp.com>